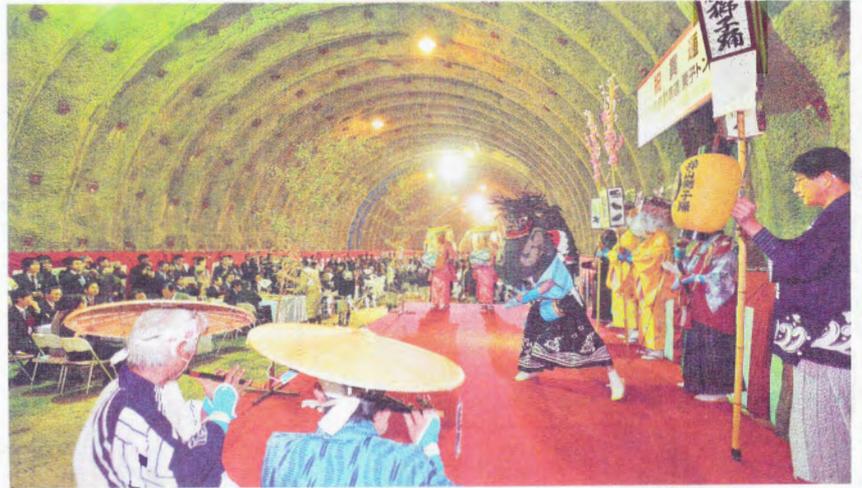


米沢市-福島市間 東北最長、8972m 「栗子トンネル」貫通

東北最長となる栗子トンネルの貫通を祝い、梓山獅子踊りが披露された
米沢市万世町刈安



現地で式典 17年度開通予定

山形、福島両県境で建設が進む東北中央自動車道の栗子トンネル(仮称)が貫通し、現地で22日、式典が行われた。米沢市万世町刈安から福島市飯坂町中野間の延長8972mで、道路トンネルとして東北で最も長い。全国では5番目で、無料道路に限れば最長となる。開通は2017年度の予定。 31面に関連記事

国土交通省山形河川国道事務所によると、栗子トンネルは09年8月に掘削が始まり、貫通まで約4年7カ

月を要した。これまでの事業費は約165億円。最高地点の標高は約450m。同トンネルを含む東北中央道福島ジャンクション-米沢IC(インターチェンジ)間、米沢-米沢北IC間とも17年度の供用開始を予定しており、整備後は米沢、福島の両市街地間の所要時間は現行の60分から40分に短縮される。 貫通式では、吉村美栄子知事が本県側で最後の発破スイッチを押し、爆発音が響くと、出席者から拍手と万歳の声が上がった。その後、貫通点を通り初めし、佐藤雄平知事ら福島県側の関係者と喜び合った。引き続き、約380人が出席して祝賀式が行われ、安部三三郎米沢市長、小林香福島市長が「人や文化、観光の交流が推進され、南東北の活性化につながることを願う」とあいさつ。根本匠復興相は「(福島県の)浜通り、中通りと山形県の広域連携が容易になる。被災地復興への貢献も期待している」と祝辞を述べた。 アトラクションでは米沢市の保存会による梓山獅子踊りなどが披露された。



発行所
山形新聞社
〒990-8550
山形市旅籠町2-5-12
電話 代表023(622)5271
©山形新聞社2014

交流拡大 熱い期待

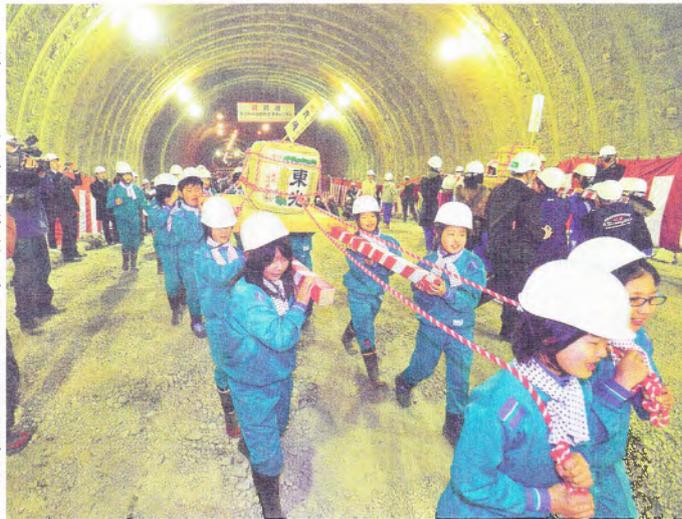
「栗子トンネル」貫通

ストローク現象懸念も

東北中央自動車道の栗子トンネル(仮称)が貫通し、式典が行われた22日、本県や米沢市の関係者から、福島県、首都圏との交流人口拡大に期待の声が上がった。一方で、大都市に人や資本が吸い取られるストローク現象への懸念もあり、2017年度の開通までに「来てもらえるまちづくり」に向け、新たな取り組みが必要とする声も聞かれた。

――一面に関連記事

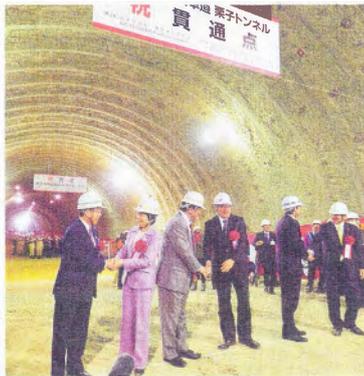
貫通発破をそれぞれの県、復興、発展に明るい光が差した。佐藤知事は「県境をまたぐ大きなネットワーク形成につながっている」と述べ、両県を結ぶ新たな道に期待を込めた。



栗子トンネルの貫通点付近を祝いのたるみこしを担いで練り歩く万世小の児童たち
――米沢市万世町刈安

米沢商工会議所の吉野徹会頭も式典に出席した。栗子トンネルが開通すれば、首都圏から東北への観光ルートが大きく変わると予想。「米沢の交流人口は拡大するはず。通行時間の短縮は企業誘致にも有利に働くだらう」と語った。

アトラクションでは米沢市万世小の子どもたちが、たるみこしを担いで貫通点を練り歩いた。旅行業に携わる同会議所女性の清川千賀子副会長は「アクセスが良くなることで多くのお客様に来てもらえたらありがたい」とし、「市民総出でおもてなしの準備に取



貫通点で吉村美栄子知事(左から2人目)と佐藤雄平福島県知事(左)ら両県関係者が笑顔で握手を交わした

り掛かりたい」と話した。交通ネットワークの整備は、同時に課題を突きつける。ストローク現象対策だ。吉野会頭は「人口流出に拍車がかかっている可能性もある。来てもらえるまちを開通までにつくらなければならぬ」と述べ、市の中心市街地活性化の重要性を指摘。「どう活性化していくかは喫緊の課題。プランを練りたい」と続けた。

米沢市は、東北中央道福島―米沢北間の開通に合わせ、道の駅整備を計画している。新年度は用地測量と造成設計などに着手する。安部三郎市長は、人を呼ぶために、農業を中心に新たな産業を興せないと考えているとし、「農業の見本市のような道の駅にしたい」と展望を口に出した。